

平成28年度 発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業  
(通級による指導担当教員等専門性充実事業)  
成果報告書 (概要版)

実施機関名 ( 熊本県教育委員会 )

## 1. テーマ

拠点校における通級による指導や在籍する学級との連携等や指導支援の在り方等の研究を特別支援学級担任及び通級による指導担当教員のためのハンドブック (以下「ハンドブック」という。) にまとめ、これを各校の取組に生かし、児童生徒への指導支援を充実させる。

## 2. 問題意識・提案背景

本県では、学校が把握する発達障害の診断を受けている児童生徒の急増や、その過半数が小中学校の通常の学級で学んでいる現状を踏まえた取組を実施している。しかし、通級による指導における平成27年度個別の教育支援計画の作成率は、小学校で約65%、中学校で約78%と十分とは言えない。また、専門性の指標の一つとなる特別支援学校教諭免許の取得状況は、通級による指導担当教員が約46%、通級による指導担当の経験年数が3年以下の教員が約27%である。通級による指導担当教員を対象とした研修についても、研修受講により一定の知識の習得は得られているが、その後更に知識を深めたり、実践力を高めたりすることが難しく、得られた知見を授業改善にうまく生かせていない状況が見られる。また、県作成のハンドブックも作成から6年経過しており、記載内容の見直しが必要であった。これらの状況から、教員の指導力・実践力を全体的に向上させるまでには至っていない。

## 3. 目的・目標

目的：通級による指導の専門性の高い担当教員の所属校を拠点校とし、通級による指導と児童生徒への指導支援の在り方について実践研究を進め、その実践研究をもとに通級による指導担当教員等が活用できるハンドブックを作成・配付し、県内の通級による指導担当教員等の指導力の向上を図る。

目標：

- 拠点校における通級による指導及び児童が在籍する通常の学級との連携を充実させ、その実践事例をまとめ、本県の通級による指導の在り方について整理する。
- 拠点校の通級による指導担当教員等を中心に、通級による指導等の運営や児童生徒の教育的ニーズに応じた指導支援を充実させるためのハンドブックを作成し、公立小中学校全校に配布し、その活用を図る。
- 通級による指導担当教員の実践力の向上を図るため、完成したハンドブックを研修会のテキストとするなど、その活用を推進し、通級による指導の充実を図る。

#### 4. 主な成果

- 通級による指導担当教員等を中心に、通級による指導や児童生徒の教育的ニーズに応じた指導支援、児童が在籍する通常の学級との連携を充実させた拠点校の取組を整理することができた。
- ハンドブック作成のため、「特別支援学級担任及び通級による指導担当教員のためのハンドブック作成委員会」を組織し、会議を5回開催した。
- 拠点校の通級による指導及び校内支援体制の充実について取組検討と充実のため、ハンドブック作成検討委員を拠点校へ派遣し、通級による指導の実践に対する指導助言を行った。
- 児童生徒の実態を的確に把握して適切な教育課程を編成し、対象児童生徒の教育的ニーズに応じた指導支援を実施することができるよう、拠点校の実践を取り入れたハンドブックを作成することができた。

#### 5. 通級による指導における専門性のポイント

- 実態把握
  - ・できる限り多数の視点からの児童生徒の学校生活や学習・生活等を把握し、児童生徒の課題を絞ること。
- 個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成・活用
  - ・保護者、関係機関とも連携して情報を共有すること。
  - ・在籍学級担任が中心となり個別の教育支援計画を作成し、毎年修正し3年で更新すること。個別の指導計画は、学期ごとに評価・改善の検討を行いながら修正し、1年で更新すること。
  - ・通級による指導では、当該児童生徒の自立活動の個別の指導計画及び年間指導計画等を作成し、通級による指導の目標設定と指導時数を適切に定め、指導を行うこと。
- 個人ファイルの活用
  - ・通級による指導の授業内容と気付き、毎時間の通級による指導の学習シートや板書の写真等を添付するなどした指導の記録を作成し、ファイリングすること。
- 通級による指導担当教員と通常の学級担任等との連携
  - ・個人ファイル等を活用し、対象児童のよさや課題についての解決策や有効な手立て等を指導者間で共有する。併せて、校内委員会等により当該児童生徒の成長や課題を確認する機会を設ける。

#### 6. 拠点校における取組概要

##### (1) 通級による指導開始時における支援終了目標の設定及び評価手法の研究

###### ○実態把握

- ・全職員による客観的・多面的に学校生活や学習での困りごとを把握
- ・在籍学級担任による通常の学級における集団生活や一斉指導、ソーシャルスキルの困りごとを把握
- ・通級による指導担当教員による自立活動6区分26項目の実態把握
- ・保護者の家庭における困りごと、本人の困りごとを把握

○個人ファイルの活用

- ・通級による指導の学習シート、板書の写真、学習記録用紙を綴じた「通級による指導個人ファイル」を作成し、通級による指導担当教員と在籍学級担任とで1～2週間に1度ファイルをやりとりし、情報の共有を図る。通級による指導担当教員は、在籍学級における対象児童の様子の記事の内容を次時の学習課題設定に活かす。

○校内通級指導委員会

- ・3学期に行う校内通級指導委員会で、授業時数と通級による指導の様子、在籍学級におけるソーシャルスキル実態把握の結果等を見て、対象児童の終了及び継続を協議する。

(2) 通級による指導担当教員が通常の学級担任と連携を深化させるための専門性の在り方の研究

- 個人ファイルを活用して対象児童のよさや、通級による指導で学習した困りごとについての解決策や有効な手立て等を在籍学級担任と共有する。

(3) 通級による指導における発達障害による学習上又は生活上の困難の改善・克服を目的とする支指導方法の研究

- 自立活動（3人間関係の形成、6コミュニケーション）を核としたコミュニケーション能力育成の教育課程を編成し、個別指導とグループ指導を適宜組み合わせ効果的に行う。

## 7. 今後の課題と対応

- 本県における通級による指導は、自立活動の観点を取り入れているものの、教科の補充指導の比重が大きくなりがちである。自立活動の指導をしっかりと行うことができるように、通級による指導担当教員の専門性を向上させ、児童生徒の指導の充実につなげる。

- ハンドブックを通級担当教員等が学級経営や授業づくりの参考とできるように、県立教育センター等における各研修等での説明資料として使用する他、様々な機会に利用するように、積極的に周知を図る。

- ハンドブックを活用して様々な研修を進める中で、通級による指導や特別支援学級のをリーダーとなる専門性の高い教員を育てる。

- 十分な実態把握と指導支援に反映できる特別支援教育体制の構築など、各学校で校長のリーダーシップのもと、全校で特別支援教育の充実を図る。

## 8. 拠点校について

拠点校名：天草市立本渡南小学校（平成29年1月1日現在）												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	96	3	88	3	99	3	85	3	85	3	84	3
特別支援学級	2	2	1	1	1	1	1	1	2	2	0	0
通級による指導 (対象者数)	2	1	4	1	4	1	2	1	1	1	2	1
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	25	1	2	2	1	3	0		1	37

## 9. 問い合わせ先

組織名：熊本県教育委員会

- (1) 担当部署 熊本県教育庁教育指導局特別支援教育課特別支援育指導班
- (2) 所在地 熊本県熊本市中央区水前寺6丁目18番1号
- (3) 電話番号 096-333-2683
- (4) FAX番号 096-384-1563
- (5) メールアドレス tokubetsushien@pref.kumamoto.lg.jp